

農産 F A X 情報 第10号

令和元年10月1日

発行：ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 農作業事故防止

日没が早まる時期です。夕方の作業はより一層安全確認に努めましょう。また道路走行時はトラクタの前照灯や車幅灯を早めに点灯し、作業機には低速車マークや反射板・反射シールを装着して安全運転を心がけましょう。

2 秋まき小麦

(1) 今後の種対応

やむを得ず10月1日以降のは種となる場合、は種粒数は250粒/m²を目途(11~12 kg/10a程度)としてください。

(2) 除草剤散布

秋期の除草剤処理は雑草対策に有効です。使用時期と使用量に注意して散布しましょう。

- ・小麦出芽前は、は種直後~出芽前までに
- ・小麦出芽後は、小麦1葉~3葉期内に雑草発生前~発生始までに

3 てんさい

(1) 収穫時の注意点

- ① 収穫作業は輸送計画に基づき、集荷日の数日前には終了するよう計画・実施しましょう。
- ② 根腐病などで腐敗が生じている部分は別掘りとし、腐敗の混入を防いでください。

(2) 堆積・貯蔵

収穫物をほ場に一時堆積・貯蔵する場合は、必ず貯蔵用シートを夜は被覆し、昼間は剥がして、腐敗や乾燥・凍結を防止しましょう。

併せて堆積場所の周辺に排水溝を設けるなどの排水対策を行いましょう。

(3) 翌年に向けて

翌年作付予定ほ場のpHを測定し、低い場合には事前に石灰質資材による酸度矯正を行いましょう。

【目標pH】

- 輪作体系に『ばれいしょ』がある場合 … pH 5.8
- 輪作体系に『ばれいしょ』が無い場合 … pH 6.0~
- 直播栽培の場合 ……………… 最低でもpH 6.0以上に

(4) 育苗土の確認

翌年の育苗土を準備していない場合には、育苗土の確保・酸度矯正・完熟堆肥混和など、早急を実施してください。

4 豆類

(1) 小豆・手亡の収穫

小豆や手亡のピックアップ及びコンバイン収穫は、次の事項を参考に実施してください。

表1 ピックアップ及びコンバイン収穫適期の目安

小 豆	手 亡
<ul style="list-style-type: none">・ 熟莢率100%（子実水分15～17%）・ 完熟期から2週間以内	<ul style="list-style-type: none">・ 熟莢率ほぼ100%（子実水分16%～18%）・ 完熟期から1週間以降
注）子実水分を穀物水分計などで測定し、適正な「こぎ胴周速度」で収穫作業を行ってください。	

(2) 収穫残さの処理

茎葉等の収穫残さは、翌年の病害発生源、害虫の越冬場所等となります。ほ場外に搬出して堆肥化するなど、適正に処理しましょう。

(2) 菜豆類収穫後のインゲンマメゾウムシ対策

十勝管内でも、保管中にインゲンマメゾウムシの被害が出ています。収穫後には子実を出荷するまで風通しの良い低温条件下(なるべく11℃以下)で保管するか、貯蔵せず早めに出荷しましょう。

農作業機の旋回・後進時には、まわりに注意しましょう！

**収穫遅れによる焦りは禁物です。作業が立て込んでいる時こそ
落ち着いて作業手順の確認を行きましょう！**